

くらしの相談センター 多摩 ニュース NO. 12

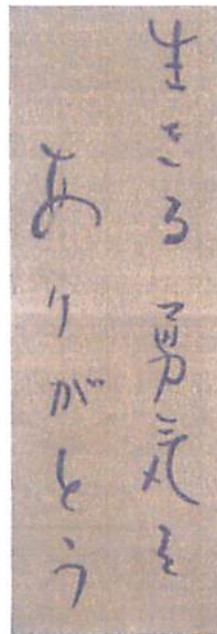
「春は名のみの風の寒さよ♪」と歌にもあります。暖かい春はまだ「もう少しの今日この頃です。『くらしの相談センター多摩』ではと足早く温かい春が来た様なドラマがありました。それは「ニュース」をとおいた **うながり** でした。今回の体験談がその内容です。



体験談

(1月初め相談に来られたAさんに体験談を書いてもらいました。)

小生、生きる事に疲れ果てていたある日、ふとした事で市会議員井口まみさんが所長の「くらしの相談センター多摩」のニュース記事を目にする事が出来ました。半信半疑で私の実情を聞いて頂きたく早速、手紙を送り返信を待っていましたら何と！私の送った手紙が着いたか着かないかの内に、センター事務局長の加藤さんよりお電話を頂き、私の現在の実情をお話しいたしました。1年程前までは、普通の生活をしておりましたが、体調を悪くして職を失うことになり、「療養及び病院通いに専念し、病気が快復しましたら再度職に戻れば…」などと軽い気持ちでいましたが、思うほどには回復せず、預貯金も底をついてしまい年金(収入不足のため受給は小額)だけでは、この先とても生活設計が成り立たず半ばヤケクソになって生きていました。事務局長の加藤さんにこの先の事を相談いたしました所、早速、多摩区役所にて生活保護の手続きを何から何まで教えて頂き、その上役所までご同行頂き係の方に私の現状をお話し、その日の内に申請を受理してもらいました。手続き後、事務局長と一緒に「相談センター」を訪れた時センター内の皆さんにとっても優しく迎えられ、生きる希望を与えて頂き、勇気が湧いてまいりました。



その後、生活保護審査も無事認可され申請から一週間ほどで保護費も支給されました。このお金は、一銭の無駄のない様大切に使用させて頂き、一刻も早く体調を回復させて今回お世話になった皆さんにご恩返しをさせていただきたく、また少しでも私と同様な方達の為出来る限りのお力添えが出来れば…と思っています。今後ともよろしくお願い致します。

(文字はAさんの自筆です)

3月の専門家による相談予定

- * 法律相談 —— 川崎北合同事務所内田弁護士 (毎月第3火曜日) 3月15日・要予約・時間が限られています。相談内容の要点をまとめてください。
- * 育児相談 —— 稲田助産院藤井よし江助産師 (毎月第1火曜日・午前中)・要予約
- * 税金・相続・登記・医療・福祉・介護・年金・教育・住宅・ペットの相談
◎専門家が随時対応します。電話で要予約◎
- * よろず相談・・・所長井口まみ市会議員がすばやく相談に応じます。月曜日～金曜日・・・時間については電話でご予約ください。
- 休み・・・土・日曜・祝日・お盆・年末年始
電話・・・044-949-6674





中野島の市営住宅の方から「隣のひとり暮らしの高齢者が、病院は退院したのに住んでいる様子がない。どうしたか調べてほしい」という相談がありました。

遠くに住む娘さんとは連絡がつかず、中で倒れているのではないかと、このことです。ドアポストからのぞくと、1か月以上も前の自治会費の集金袋などが入ったままになっています。市の担当者に聞いたところ「個人情報なので詳しくは教えられない」と言いながら、「その方はすでに亡くなって、ご遺族のもとです」と言うではありませんか。

孤独死ではないとわかったのでほっとしましたが、わかるまで本当に心配しました。

私のご近所でも、誰にも知られずに亡くなって何日もわからなかったという事がありました。それは一人や二人ではありません。どんな最期を迎えられたのだろう。どんな気持ちだったのだろうと思うと、何かできないだろうかという思いが募ります。

「高齢者の孤独死」が問題になっています。亡くなってから発見まで時間がかかったことが問題かのように言われますが、本当の問題点は『一人ぼっちですと最後まで生きなければならない事』ではないでしょうか。病氣もしたでしょう。介護も必要だったかもしれません。何らかの社会的な支援を受けていれば、何かあっても手を差し伸べられます。しかし支援もつながりもなくひっそりと生きる人がいる、そういう人を放置している、今の社会そのものが問題だと思のです。

もっと暖かい手を差し伸べて、社会の中で見守られて人生を全うできる国でありたいと心から思います。介護保険があまりにも使いにくい。住宅も確保できていない。政治ができることはたくさんあります。

さらに、私たちも地域の中ですぐ手を差し伸べられるつながりを作っていきたいと思います。その中心にこの『くらしの相談センター』がなれたらいいなと思っています。

1月の 相談状況

● 寄せられた件数
14件

● 4月からの総件数
96件

4月10日はいつせい統一地方選挙の投票日

♥住民のくらしを守るあたたかい政治へ

いま「くらし向きが苦しい」「仕事がない」「保育園に入れない」などという住民の切実な声が「くらしの相談センター多摩」に寄せられています。住民のくらしが悲鳴を上げているいまこそ、地方自治体が「国の悪政から市民の利益をまもる防波堤」の役割を発揮するときです。

日本共産党は、住民のくらし、福祉、子育てなどに真正面から取組み、市政・県政の転換させるため全力をあげます。

◆「くらしの相談センター多摩」は今年4月11日で開設よりまる 1年になります。維持・運営は賛助会費により支えられています。現在の会員数は 110人です。

維持・運営は200名の賛助会員が必要です。

みなさん！200名の会員で1年目の春を迎えましょう！

よろしくお祈いします。

